



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 京セラのアメーバ経営システム

### 京セラ発展の歴史

5

日本に株式会社は約250万社存在するが、公開企業はわずか約3,500社しかない。そして、そのなかでも連結売上高1兆円を超える企業は約80社に絞られる<sup>1</sup>。京セラは71位。日本を代表する有数の企業グループであり、以下の4部門から構成される<sup>2</sup>

- 機器関連事業：通信機器、情報機器、光学機器など
- 電子デバイス関連事業：半導体部品、電子部品など
- ファインセラミック関連事業：素材、部品としてのファインセラミック製品
- その他関連事業：医療用機器、宝飾品、ソーラー製品など

10

また、子会社・関連会社にはKDDI、京セラミタなど出資によって事業展開を図った企業もあれば、アメーバ経営システムのコンサルティング業務を行う京セラコミュニケーションシステムもあり、多方面に事業展開を行っている。しかし、大規模、多角化経営という特徴だけが京セラの特徴ではない。京セラの注目すべき点は、売上高ランキングに現れる企業が三菱商事、トヨタ自動車、三井物産、伊藤忠、NTTと歴史のある企業が多いなかで、1959年4月に従業員28名でスタートした企業がわずか約40年の間に急成長を遂げ、日本を代表する有数の電気機器メーカーとなったことである。また、京セラは高収益企業としても名高く、ROAでは8位の27.2%である。

15

京セラ発展の歴史を振り返ると、節目節目で困難と思われる課題に挑戦し、意思決定を行い、発展してきたことが読み取れる。鹿児島大学工学部を卒業した稻盛和夫氏は、1955年京都の松風工業に就職する<sup>3</sup>。当時はもはや戦後ではないといわれ、白黒テレビ放送が始まったばかりの復興機運の高揚しつつある時期であった。このとき、稻盛氏はニューセラミクス素材の研究に従事していたが、その研究は実を結び、やがて松下電器産業でテレビのブラウン管部品であるU字型ケルシマの製造原料として使われるようになった。

20

25

このケースはクラス討議の資料するために、高見茂雄(富山大学経済学部教授)が公開資料をもとに作成したものであり、経営上の状況処理の適否を例示することを目的としたものではない。

30

© 2002 慶應義塾大学ビジネス・スクール

1 <http://rank.nikkei.co.jp> より検索、銀行業を除く。

2 京セラホームページより、部門別売上高の分け方によった。

3 以下の記述は稻盛和夫(2002)、京セラホームページの「沿革」を参照にした。